

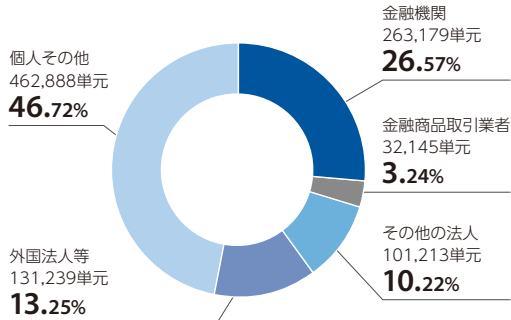
● 会社概要

商 号 オーエスジー株式会社
OSG Corporation
本 社 愛知県豊川市本野ヶ原三丁目22番地
設 立 1938年3月26日
資 本 金 130億44百万円
従 業 員 連結7,656名 単独1,878名
事業内容 切削工具、転造工具の製造販売
上場市場 東証プライム・名証プレミア
(証券コード6136)

● 株式の状況

発行可能株式総数 200,000,000株
発行済株式総数 99,182,517株
株 主 数 12,652名

● 所有者別株式分布状況(1単元の株式数100株)



(注) 1. 単元未満株式は含まれていません。
2. 自己株式は「個人その他」に含まれています。

● 大株主の状況

株主名	所有株式数 (千株)	所有株式数比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	11,057	13.49
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	5,109	6.23
オーエスジーエージェント会	3,576	4.36
オーエスジー持株会	2,589	3.16
公益財団法人大澤科学技術振興財団	2,240	2.73
株式会社三井住友銀行	2,100	2.56
MSIP CLIENT SECURITIES	1,966	2.40
オーエスジー社員持株会	1,927	2.35
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,724	2.10
オークマ株式会社	1,374	1.68

(注) 1. 所有株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 上記以外に自己株式 17,216千株があります。
3. 所有株式数比率は自己株式を控除して算出しております。

● 株主メモ

事 業 年 度 毎年12月1日から翌年11月30日まで
定 時 株 主 総 会 毎年2月開催
基 準 日 定時株主総会・期末配当 毎年11月30日
中間配当 毎年5月31日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電 話 照 会 先) 電話0120-782-031(フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
公 告 方 法 電子公告によります。ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は本経済新聞に掲載いたします。
https://www.osg.co.jp/about_us/ir/kessan/
単 元 株 式 数 100株
上場金融商品取引所 東京・名古屋両取引所
証 券 コ ー ド 6136

OSG 通信

第113期 上半期のご報告

2024年12月1日～2025年5月31日
[OSGレポート ダイジェスト版]



オーエスジー株式会社

証券コード：6136



〒442-8543 愛知県豊川市本野ヶ原三丁目22番地
TEL：0533-82-1111 FAX：0533-82-1131
<https://www.osg.co.jp/>



長期ビジョン

カーボンニュートラル時代に向けて
世界のモノづくり産業に貢献するエッセンシャル・プレイヤーへ

中期経営計画「Beyond the Limit」

「お客様一人ひとりの夢をカタチにしたい」その思いを原動力に今までの常識に囚われず
限界を超えて挑戦を続け、世界のモノづくり産業を地球規模で支えてまいります。

CONTENTS

- 02 ごあいさつ
- 03 社長メッセージ
- 05 OSGの強み
- 07 多様性の尊重
- 08 コーポレート・ガバナンス
- 09 世界で成長を続けるOSG
- 10 財務・非財務ハイライト
- 11 会社情報／株式情報

本冊子について

本冊子は、統合報告書「OSGレポート2024」のダイジェスト版として制作されています。持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指す当社の姿を分かりやすくまとめました。なお、P10「財務・非財務ハイライト」P11「会社情報／株式情報」については2025年5月31日時点での最新情報を記載しております。

サステナビリティサイトのご紹介

環境への取り組み、社会への取り組み、コーポレート・ガバナンス体制など、持続的な企業価値向上に向けた取り組みをご紹介します。

<https://www.osg.co.jp/sustainability/index.html>



原悠介さんのアート作品

新城市の社会福祉法人新城福祉会レインボーはうすに通いアート作品の制作に励んでいます。原さんは、言葉で想いを伝えることはありませんが、ジェスチャーや表情、イラストカードを使い、想いを伝えてくれます。また、紙をちぎることが得意で、ご自身でちぎった紙を使って作品を仕上げます。原さんは繊細で、周りの人の気持ちやその場の雰囲気をよく感じ取っているので、それが作品作りにも影響します。ちぎった紙を貼る工程では「ドンッドンッ」と画用紙を力いっぱい叩いたり、同じところに何枚も貼り重ねたりと、その時々の気持ちとこだわりがたっぷり詰まった作品が完成します。楽しい気持ちも、納得できない気持ちも作品の一部として、レインボーはうすの支援者の皆さんは見守っています。

ごあいさつ

代表取締役会長 兼 CEO
石川 則男



代表取締役社長 兼 COO
大沢 伸朗



当第2四半期連結会計期間における世界経済は、地政学的なりスクやトランプ政権による関税政策を背景に不確実性が高まる状況となりましたが、製造業全般における景況感は地域による差はあるものの全体としては底堅く推移しました。

地域別には、日本市場においてAブランド製品や微細精密加工向けカタログ製品の販売が好調に推移し増収増益を達成いたしました。米州では、インフレの影響や為替が円高基調で推移したことから減収減益となったものの、第2四半期3ヶ月間は減収幅に対して利益の減少は小幅にとどまりました。欧州も自動車産業の低迷によりドイツを中心に低調な状況が続きましたが、同様に第2四半期3ヶ月間の比較においては、減収額に対する減益幅を相対的に抑えることができました。一方、アジア地域では、中国における家電・半導体・電子部品分野の受注が堅調に推移し、南アジアではインド経済の成長を背景に増収を確保いたしました。利益面では為替の影響によりわずかに減益となりました。

このような外部環境の中、当社グループの第2四半期連結業績は前年同期比で減収減益となりましたが、第2四半期3ヶ月間の営業利益率は14.1%と、過去2年における四半期では最も高い水準を記録しました。下半期に向けても収益向上の取り組みを継続してまいります。

当社グループは、本年度より中期経営計画「Beyond the Limit 2027」Stage2を始動し、事業効率及び資本効率の向上に重点を置いた経営を推進し、2027年11月期にROE10%超、営業利益率16%超を目指して活動してまいります。

資本効率の向上に向けては2025年4月に自己株式の取得を実施し、7月10日に当該自己株式の消却を決議いたしました。今後も資金需要及び経営環境を踏まえつつ、機動的な自社株買いを通じて企業価値及び株主価値の最大化に努めてまいります。

今後とも、ステークホルダーの皆様におかれましては、引き続きご支援とご理解を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

社長メッセージ



shaping your dreams

代表取締役社長 兼 COO 大沢 伸郎

社会課題に直面するお客様に、 高いレベルの総合力で製品・サービスをお届けします

オーエスジーグループは総合切削工具メーカーであり、多岐にわたる分野で世界のモノづくり産業の土台を支えています。技術が日々、進歩・進化する中で、必要とされる切削工具も変化しています。私たちはそのような時代とともに変化するニーズをいち早くキャッチし、スピード感を持ってお客様に製品・サービスを提供し続けることで、常にお客様から必要とされるメーカーであり続けたいです。また、常識を覆すような社会変化が次々と起こる今の時代では、さらにお客様の期待以上の製品・サービスを提案することが目指すべき姿だと考えています。モノづくりの生産現場においては、労働人口の減少によって自動化が進み、またカーボンニュートラルをはじめとする環境配慮への対応も必要になります。オーエスジーグループは、製品である切削工具を通して、それらの社会課題を解決することを目指しています。高品質で耐久性の高い切削工具は、工具コストや段取り時間を削減し、生産性を向上させます。また加工時間も短縮できることから、消費電力を削減してカーボンニュートラルにも貢献します。

人財の見える化を進め、若手からシニアまで いきいきと働ける場を提供します

企業に成長をもたらすのは言うまでもなく人財ですが、デジタル化や生成AIによる社会変化を捉えた時に、世の中の進歩と並走できる人財、先を行く人財をどれだけ確保できるかが非常に重要です。人口減少も歯止めがかからず労働人口が減る厳しい環境の中、今以上のパフォーマンスを企業として示し続けるために人財戦略をどう展開していくのか。オーエスジーの人財を年齢区分で分布すると30代から下の世代は層が薄くなっており、非常に危機感を持っています。10年後、20年後は今よりも少ない人員で会社の成長を実現しなくてはならず、Z世代と呼ばれる若者たちが社会の中心になる時代はもう目の前です。価値観が理解できないなどと頭を抱えている時間はありません。価値観の異なる世代がオーエスジーでの仕事はおもしろいと感じ、会社を切り盛りしてくれる人財となるよう仕組みや環境を整え、やりがいを持って働いてくれる人財を一人でも多く増やしていくことが重要です。近い将来、オーエスジーグループの中核となる層に対して、計画的に育成していくプログラムを構築するとともに、

それぞれが活躍できる場所をイメージして適材適所の人員配置を実現していきたい考えです。

中期経営計画Stage2では、収益性、成長性、 資本効率を重視し、経営基盤の強化を図ります

中期経営計画Stage1(以下、前中計)は最終年度、増収ながらも利益面に課題を残し、中期経営計画Stage2(以下、現中計)に移行しました。前中計では海外の売上高比率が68%と、右肩上がり で伸長しており、為替の影響も反映し売上高は過去最高となりました。地域ごとにみても、日本、米州、欧州・アフリカ、アジアでバランスよく売り上げており、一極集中していない点が強みとなっています。しかしながら、グローバルでのコスト増を吸収することができず、前中計で目指していた収益性や事業効率の改善目標値には至りませんでした。営業利益率については、コロナ禍以後、下降傾向が続いているため、株式市場からは収益面において成長性に疑問符が付けられていると認識しており、危機感を持って現中計のStage2に臨んでいます。不採算の製品・部門の見直し、事業効率を考えたオペレーションの最適化などを着実にやっていくと同時に、顧客産業別ポートフォリオの再構築も進めています。特に微細・精密加工向け工具については今後の成長が期待できる分野で、半導体、5G産業、ロボット・自動化、医療産業などへの販路開拓をさらに進め、収益を大きく押し上げる動力にしていきたい考えです。また、新たな業種を新規開拓を進めるにあたり、営業部内で縦軸、横軸を通し、スピード感を持って組織を機能させることを目的として2023年12月、約60年ぶりに営業体制を刷新しました。体制がこれまでと大きく変わった現状で、メンバーには、新たな意識を持って行動し、挑戦していくことを期待しています。

収益性の向上に引き続き取り組んでいく現中計では、営業利益率16%超、ROE10%超を新たな経営指標として加えました。これ

は営業利益率が17-18%程度であったコロナ禍以前の収益性を目指す決意表明です。また、当社のPBRIは年々低下し、現状1倍以下で推移しています。資本を効率よく使用し、投資もして利益を生み出すことが必要となっており、現中計で掲げる経営指標をはじめ、財務資本政策を着実に実行し、企業として求められるレベルの数値を出して、株主や市場関係者の皆様の期待に応えていきたい考えです。

売上の70%近くを海外で生み出している当社グループでは、現地のいちメンバーに至るまで現中計をどれだけ理解し、日々の業務で実践できているかが肝となります。各地域の幹部には、定例で行う会議の際、顔を突き合わせて説明し、計画に沿った予算編成も求めるため、現中計の浸透に問題を感じることはありませんが、グループ全従業員レベルで浸透を図り、個々が自分事として取り組むには、工夫が必要だと感じています。

最後に

現在、長期ビジョンを達成するために中期経営計画「Beyond the Limit」を進め、現状クリアすべき課題も明確になっています。ただ、施策の方向性に間違いがなくとも、成果が見えなくては、株式市場や株主をはじめとするステークホルダーの皆様からの十分な評価は得られません。私の役割は、歴代の経営者や従業員によって紡がれてきたオーエスジーグループのDNAを着実に経営に生かし、数値という形で示すことだと改めて認識しています。「Beyond the Limit」に私が込めた思いは、今までの常識に囚われず、自分に限界を設けず、自らの殻を破ることに挑戦することをお原動力にして役員、従業員がこれまでの“当たり前”を見つめなおし、進んでいくことです。ステークホルダーの皆様には、挑戦するオーエスジーグループに引き続きご支援を賜りたくお願い申し上げます。

OSGの強み

お客様の期待に応える オーエスジーの4つの力

技術力

Innovation

対応力

Service

提案力

Total Solutions

創造力

Out-of-The-Box Thinking

Eペーパーの導入による納期遵守率の向上

■ 過去の納期管理の課題

生産工程において納期を紙で管理しており、営業担当者からの突発的な納期変更依頼に対して、ホワイトボードを活用し、進行票をパズルのように組み替えていました。また、生産現場のリーダーが紙で納期管理していることから、リーダーが不在の場合にその他のチームメンバーが正確な納期情報を把握しづらい環境にありました。

■ Eペーパーとは？

納期管理の課題解決のためNEO新城工場で「Eペーパー」の運用を開始しました。Eペーパーとは、家電量販店などで価格表示されている「電子棚札」を指します。

Eペーパーの大きな特徴は、専用のアンテナを工場内に設置することで、ネットワークを介して基幹システムと連携し、瞬時に表示内容の変更が可能なことです。

オーエスジー独自のEペーパーには、自工程納期、品名、所在工程記号、次工程記号、トレーサビリティのためのQRコードが表示されており、さらに左上のランプの点灯の有無やEペーパーの色によって納期の遅れがあるものをすぐに判別できる仕組みになっています。

■ Eペーパーのメリット

① リアルタイムでの情報変更

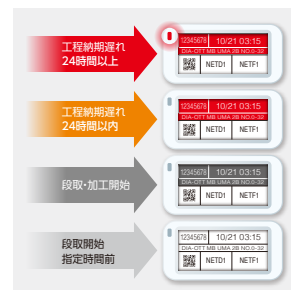
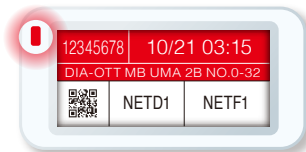
Eペーパーは、10分単位でリアルタイムの情報に更新されます。トラブルや納期変更に合わせて基幹システム上で納期を組み替え、表示を変更することが可能なほか、一目で現在の生産の進捗や生産の優先順位が分かるようになっています。これによりリーダー不在時でも生産現場の担当者は優先的に生産すべき製品の判別が可能です。

② 作業効率の向上

Eペーパーを使用することで、納期表示の更新作業を迅速に一括で行うことができ、作業効率が向上します。従来の手書きや印刷による方法に比べ、時間と労力を大幅に削減することが可能です。

③ ヒューマンエラーの防止

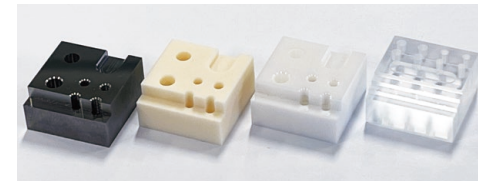
Eペーパーの導入により手作業による情報伝達ミスや記載ミスなどのヒューマンエラー防止につながります。



6C x OSG ー硬脆材料加工の新基準ー

■ 硬脆材料の特性とポテンシャル

硬脆材料とは、超硬合金、セラミックス、石英ガラスなどをはじめとする耐摩耗性、耐熱性に優れた素材です。近年、硬脆材料は幅広い産業（自動車、医療、航空宇宙など）への応用が進んでおり、特に部品の精度や耐久性を向上させるため、金型や半導体の分野におけるニーズが増加しています。



左から、超硬合金、アルミナ、ジルコニア、石英ガラス

■ 硬脆材料加工の課題

硬脆材料は、その名の通り硬度が高いことから衝撃に弱く脆い特性があり、突発的な破損を起こすことがあります。一般的な加工方法は研削加工と放電加工ですが、加工時間が長く生産性が上がりにくいことが課題となります。

■ 6C x OSGブランドの設立

このような課題を解決し、硬脆材料の新しい高能率加工を提案するため、オーエスジーは2022年にスイスのチューリッヒに拠点を置く切削工具メーカーの6C Tools AGと提携し、硬脆材料加工用の切削工具ブランドとして「6C x OSG」ブランドを設立しました。6C Tools AGは2015年に設立されたベンチャー企業で、多結晶ダイヤモンド(PCD)を母材に採用した切削工具を製造し、スイス国内外の精密加工メーカー向けに製品を供給しています。

■ PCD(多結晶ダイヤモンド)工具で新たな提案

6C x OSGブランドは、PCD工具のラインナップを展開し、硬脆材料加工における課題を解決するための新しいコンセプトを提案しています。PCD工具は硬脆材料の高能率・高精度な直彫り加工を可能にし、従来の課題であった加工時間の短縮および加工コストの削減を可能にします。

また、グローバルネットワークを駆使し、シナジーを創出することで製品ラインナップや技術力の強化を図っています。硬脆材加工分野は、中期経営計画の重点戦略として掲げている微細精密加工分野の強化にもつながるため、今後も一層注力してまいります。



6C x OSG



硬脆材料の加工に最適化された
エンドミルPCD-MRM

多様性の尊重

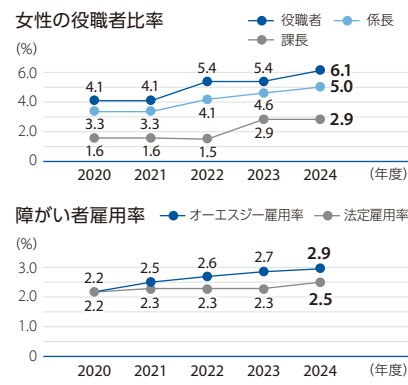
オーエスジーグループは、多様性を尊重し、すべての社員が活躍できる環境の整備に取り組んでいます。その一環として、女性および障がい者の活躍推進に注力し、目標を定め、その達成に向けた施策を進めています。

人権の尊重

オーエスジーグループは、人権方針および企業倫理綱領に基づき、社員の人権尊重を推進しています。2024年度は、企業倫理綱領の周知をグループ会社まで拡大して行い、相談窓口の設置や社内報を活用した啓蒙活動を継続して実施しました。2025年度は、全社員向けのハラスメント教育を実施し、今後は管理者向けの対応力強化教育を充実させる予定です。これにより、社員一人ひとりが安心して働ける職場環境の整備を進め、公正で多様性に富んだ組織づくりを推進してまいります。

女性・障がい者の活躍推進

女性役職者比率(係長)については、2025年に7%を目標に掲げ、2024年度で6.1%と、着実に目標に向けて進捗しています。また、障がい者雇用については、引き続き2024年度も法定雇用率である2.5%を上回る2.9%を達成し、今後も安定的な雇用の確保と職場環境の向上を図ります。2025年度も引き続き、女性役職者比率7%の目標達成に向けたキャリアパスの明確化と管理職候補となる社員への育成プログラムの強化を通じて、女性がリーダーとして活躍しやすい環境を整備するとともに、障がい者の継続的な雇用と職場環境の充実を図り、多様な人財が能力を最大限に発揮できる職場づくりを推進します。



VOICE



オーエスジーアクティブ株式会社

竹本 良太

今回、特例子会社オーエスジーアクティブの社員の竹本さんと、実際に作業しているオーエスジー新城工場の鈴木さんにインタビューを行いました。

Q. 職場の環境、働きやすさについてどう感じていますか？

オーエスジーの職場は働きやすい雰囲気で、何かあった時にも気兼ねなく相談できますし、サポートしてくれます。また、オーエスジーアクティブの送迎サービスはとても役立っています。以前は電車で通勤していましたが、送迎のおかげで時間を有効に使えるようになり、自由に使える時間が長くなりました。



第2製造部 生産管理2課 課長

鈴木 英晶

Q. 竹本さんが働きやすい職場環境を作るために、何か意識されていることはありますか？

安全管理の徹底とコミュニケーションを一番大切にしています。竹本さんが必要以上の負荷や責任を背負いすぎてしまわないよう、いつもと違うことや悩んでいることがないか毎日のコミュニケーションで確認しています。職場として、安全管理や職場環境の改善など必要なことは欠かさず行っただうえで、色々なことを過度に制限してしまわないように気をつけています。竹本さんが自身の能力を最大限発揮し、成長できるような環境を整備したいと思っています。

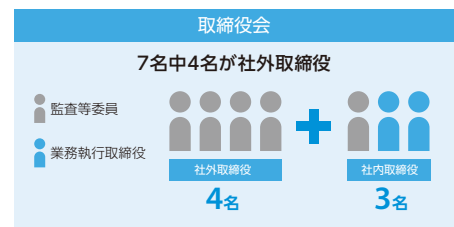
コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

オーエスジーグループは、「地球会社」という企業理念のもと、法令と社会的良識に従い公正で透明な企業活動を行うことが、経営の基本であるとともに、企業の継続的な発展と企業価値の増大に資するものと考えています。この目的を実現するために、効率的で透明性のある経営組織の確立等によるコーポレート・ガバナンスの充実が、重要な経営課題であると認識しています。また、コーポレート・ガバナンスを充実させる仕組みとして、オーエスジーを含む全グループ会社の取締役、執行役員及び従業員に、企業倫理を高めるための具体的な行動指針である「OSG Philosophy」及び「オーエスジー企業倫理綱領」を示し、コンプライアンス意識の向上を図っています。

企業統治体制の概要

コーポレート・ガバナンス体制として、監査等委員会設置会社を選択し、取締役会、監査等委員会及び会計監査人を設置しています。業務執行は執行役員が行い、取締役会は、経営の意思決定及び業務執行の管理監督を行う体制とし、役割を明確にしています。取締役会は、業務執行を行う執行役員を兼務する取締役(監査等委員である取締役を除く)を2名とすることで、意思決定の強化を図りつつ、監査等委員である取締役5名のうち社外取締役を4名とすることにより、取締役7名中4名(過半数)が社外取締役という体制としています。当該社外取締役4名全員が上場規則に基づく独立役員であり、これら独立性の高い社外取締役を含む5名の監査等委員である取締役が取締役会の構成員として、経営監督機能を十分に発揮できる環境にあるため、経営の透明性、適正性を確認・確保するコーポレート・ガバナンス体制であると考えています。また、経営環境の変化への的確な対応と業務執行の機能・責任の明確化のため、執行役員制度を導入しています。執行役員は、取締役会で決められた方針のもと、業務の執行に専念し、機動的かつ迅速化と効率化を図っています。



取締役の専門・得意分野(スキルマトリックス)

2025年2月21日現在

氏名	地位及び担当	在任年数	独立性	性別	指名報酬委員会	経営全般	製造技術	営業／マーケティング	財務／会計	金融	国際性	法務	リスク管理	ガバナンス	多様性
石川 則男	代表取締役会長兼CEO	21年		男		●	●				●		●	●	
大沢 伸朗	代表取締役社長兼COO	6年		男		●		●			●			●	●
富吉 剛弘	取締役 監査等委員	3年		男	○				●	●		●		●	
高橋 明人	社外取締役 監査等委員	7年	○	男	○ 委員長							●	●	●	
原 邦彦	社外取締役 監査等委員	5年	○	男	○ 副委員長	●	●	●					●		
山下 佳代子	社外取締役 監査等委員	3年	○	女	○				●	●					●
林 良嗣	社外取締役 監査等委員	1年	○	男	○						●			●	●

※上記の一覧表は各取締役の有する全ての知見・経験を表すものではなく代表的と思われるスキルとして表したものです。

世界で成長を続けるOSG-インドー

OSG INDIA PVT, LTD 創立20周年

OSG INDIA PVT, LTDは2005年1月にインド南部のチェンナイで設立し、2025年に創立20周年を迎えました。20周年を祝う式典にはインド全土から主力ディーラー、ユーザーなど総勢165名が参加、インド文化をふんだんに取り入れ、現地に根付いた盛大な式典となりました。

この20年間でインドビジネスは拡大を続け、現在OSG INDIAには100名の社員が勤務しています。社員の入れ替わりが激しいといわれるインドですが、多くの社員が長きに渡って勤務していることが事業拡大の重大なポイントです。本社兼工場を北部のグルガオンに移し、プネに第2工場を設立、今年はチェンナイに第3工場を稼働させる予定です。毎年過去最高の売上を更新し続け、可能性に満ちたインド。今後もインドの未来にご期待ください。



オーエスジーインドのスタッフ

途上国の電力不足と急速な経済発展を支えるオーエスジーの技術力

インドのエネルギー・重電産業は国営企業が主体となり、モディー首相の経済成長政策の一環として推進されています。「Make in India」プロジェクトにより、インド国内の製造業の経済活動が活発化しインフラ構築が急速に進められています。インド国内の電力不足は深刻で、安定した電力供給のための設備投資が不可欠です。この国家プロジェクトに当社のクリスマスカッターが参画しています。エネルギー産業は発電機、蓄電池、ワイヤーハーネスなど多岐にわたり、国内のみならず、中東・アフリカへの輸出基地としてもインドは重要な役割を果たそうとしています。途上国の電力不足と急速な経済発展に伴い、エネルギー・重電産業のニーズは今後さらに高まると予想されます。

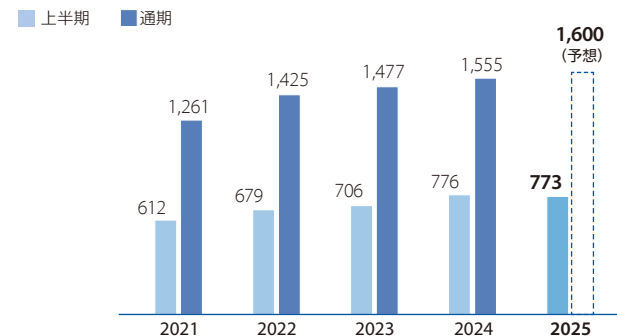


クリスマスカッター（タービンプレード加工工具）

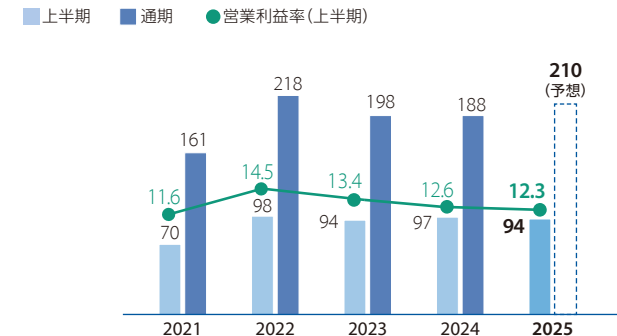
今後はクリスマスカッター以外の製品もインド国家プロジェクトへの採用を目指すとともに、将来的にはインドの工場でクリスマスカッターを製造することを視野に入れて、インド国内の生産体制やサポート体制の構築を進めていく予定です。

財務・非財務ハイライト

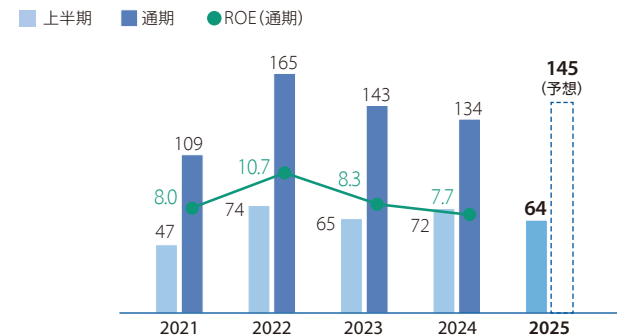
売上高(億円)



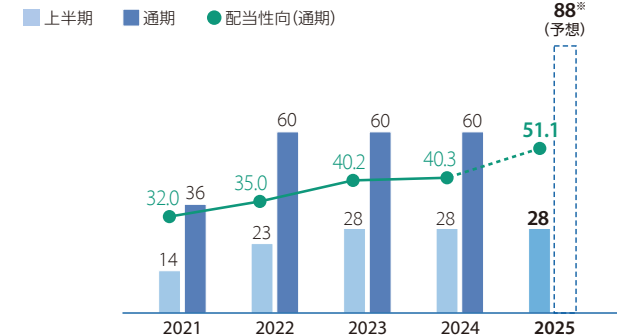
営業利益(億円)／営業利益率(%)



当期純利益(億円)／ROE(%)

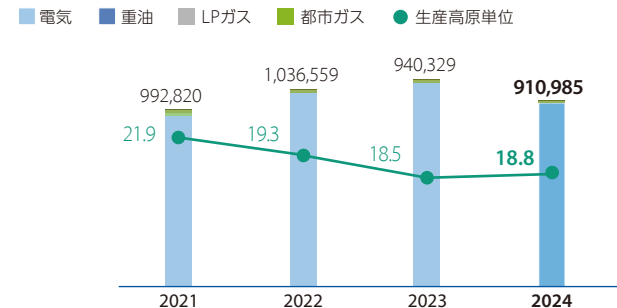


配当金(円)／配当性向(%)



※創立88周年を迎えるにあたり、年間配当額は普通配当60円に記念配当28円を加えた88円になる予定

エネルギー使用量(GJ) エネルギー使用量の生産高原単位(GJ/百万円)



CO₂排出量(t)／CO₂排出量の生産高原単位(t/百万円)

